

(*この報告は、SF すぎなみのメンバー用ですが、SF すぎなみ以外の任意のコンビビウムにも BCC で送信されます)

(*記された文言は、会議を収録した映像マスターテープに基づく要約です。発言の逐語記録ではありません)

(*出席者や発言者による事後の訂正や変更を加えておらず、SF ジャパンが発表する「議事録」などとは内容の異なる場合があります)

2010 年4月2日 SF すぎなみ TOKYO 事務局



3 月 6 日、NPO スローフードジャパン全国総会が、奈良市で開かれました。スローフードすぎなみ TOKYO からは、代表の佐々木俊弥・紀子さん夫妻、中村麻里さん、高井瑞枝さん、小出忍さん(映像担当)、そして掛川の 6 人が参加しました。



総会が開かれたのは、東大寺や春日大社などが建つ奈良公園の真ん中、奈良県新公会堂。そのメイン施設である、室町時代を模した能舞台がある 500 人収容のホールです。



総会の前に、各コンビビウムの活動事例紹介がありました。

まず、スローフード・フレンズ帯広の中学生森岡慧士さんが、「15 才がみた近自然とスローフード」と題し、スイス近自然学研究所の山脇正俊代表と訪れた、スイスの環境対策と農業の見学体験を報告しました。続いて、生物多様性プロジェクトチームの秋元摩耶さん(スローフード東京)とスローフード福島代表須藤陽子さんが、生物多様性と地元に残っていた自家採種による酒米(五百万石系)の栽培、その米を使った日本酒作りを報告し、最後に私たちスローフードすぎなみの佐々木代表が、昨年 12 月 6 日に行った「テッラ・マードレ・デー」参加 “イベント”『手作り忘年会』の記録を、DVD で上映しました。

今年の奈良は、平城京遷都 1300 年。そのマスコットキャラクターの「せんとくん」「まんとくん」が登場し、活動事例紹介に引き続き、奈良教育大学の学生たちが作った「食育カルタ」50 組の抽選会が開かれました。

このあと、NPO スローフードジャパンの会員(各コンビビウムの会員)以外の入場者は退出を求められ、会員のみによる総会が開かれました。この総会は、2004 年 6 月にスローフードジャパンが発足してから通算 7 回目、2008 年 3 月にスローフードジャパン(以下 SFJ)が NPO 法人化してからは 3 回目の総会です。

(以下、敬称略。括弧内補足・太字/下線は、記者)

15 時 09 分 総会開始

01) 開会挨拶

SFJ 会長 若生

・スローフード東京の設立以来、現在に至るまでの経過説明

手弁当で運営を行っていたため、コンビビウムの数が増えるに従って、誤解を生じた。

スローフード帯広のメンバーを中心とする有志から、呼びかけがあった。

その呼びかけを、今日の方針のなかで提案する。

2010 年は、日本のスローフード運動にとり、大きな転換点になる。

今日は、啓蟄。日本のスローフード運動が新しく生まれ変わる再出発の日だ。

スローフード・インターナショナル国際事務局長 パオロ

・通訳は、2 年前まで SFJ 事務局(仙台)にインターンとして駐在していた、アンナリーザ。意味不明の部分有り。

スローフード発足 20 周年を記念する「テッラ・マードレ・デー」には、全世界で 1,100 のコンビビウムが参加した。

その力は問題解決につながるが、会員が減っている国もある。

(それらの国では)新しいリーダーを見つけるのが難しい。

二つの点に触れたい。

一つは、運動に政治的な視座を置くこと。

これが、スローフードが他の運動と異なる点だ。

今年の秋、トリノのテッラ・マードレで(スローフード・インターナショナルは)新たなマニフェストを発表し、それが 2011 年の国際大会(?)の根本となる。

・続いて、「おいしい、きれい、たさいい」(スローフードが掲げるスローガン)についての説明

次に組織上のことを言えば、スローフード・インターナショナルは、日本でも始まった組織の地方分散化に賛成だ。

他の国でも同じ方針が進められており、地域に力を与えるべきだ。

コンビビウムが力つけて、地域のレベルでも人々が参加できるように努力しなければならない。

それと同時に、中央を新しい力で統一することも必要だ。

その決定プロセスに、できるだけ多くの人々が参加することが大切だと思う。

そのためには、トップ(会長)の哲学が必要になる。

(中略)

昨夜のディナー(前夜祭)は、古いスローフードと新しいスローフードを両立させる雰囲気だった。

その気持ちを持っていれば、スローフードジャパンのこの新しいスタートから、大事な結果を生むと思う。

スローフード奈良 尾川

・歓迎挨拶

SFJ 事務局長 萱場

・定足数の確認。出席者 137 人、委任状 51 通

・議長を、慣例に従い、次期総会開催予定地青森県八戸市の SF 八戸・河原木に指名 →拍手で承認

・議事録署名人に、SF 気仙沼の菅原、SF なにわの葉室を指名 →拍手で承認

議長(SF 八戸 河原木)

執行部から、集会のセレモニーがあるので、総会を午後 4 時半までに終わらせるよう要請があった。

執行部も、(議案の)上程理由、説明は簡潔にお願いする。

私は、共通語が苦手で東北弁でしか話せないが、パオロ国際事務局長の話にもあった<言語の多様性>に免じて許して欲しい。

02) 2009 年度活動報告、決算報告

萱場

- ・会議の開催数の報告(総会1、理事会5、リーダーズ会議2、国内委員会2)

事業としては、昨年10月に、国内で初めての「テッラ・マードレ」を横浜で開催した。

参加人数は300人あまりだったが、第一回目として、来年に向けての準備ができた。

- ・会員数の報告(公称2,167人、会費納者数1,423人、コンビビウム数48)

会員は昨年比約90人の減少だが、ここ一年間で約1,500人に固定している。

- ・決算の説明

今年の収支バランスは、プラスマイナス0だった。

累積収支では、昨年までの債務に対して約340万円の減額になっている。

累積債務の解消に向け、国際本部と協議の上、昨年一年分の会費相当分(本部への負担金)を〇〇(*音声データを80%に減速再生しても聴取不能)してもらった。

その320万円を、収入として計上した。

- ・事業会計貸借対照表(NPO法人として、管轄官庁内閣府への提出書類)の説明

正味財産としては、マイナス770万円(赤字決算)になった。

短期借入金(825万円)は、全額、現理事からの(私的)借り入れになっている。



↑「テッラ・マードレ・ジャパン」の会場

議長

続いて、土屋監事から監査報告を。

SF 信州 土屋

2月20日に開かれた理事会で、尾川監事(SF 奈良)とともに監査をした。

2009年度の事業報告及び決算書類、すべて間違いないと、確認したことを報告する。

議長

第一号(活動報告)、第二号(決算報告)の議案について、質問・意見のある方はどうぞ。

発言される方は、所属のコンビビウム名と名前を教えてください。

(「異議なし」の声。続いて、拍手)

一応、挙手を願いますが……、ほとんどの方が手を挙げているので、これは承認されたと思います。

03) 2010 年度運動方針、活動計画、組織体制、予算

萱場

今年の運動方針は、昨年までに比べ非常にシンプルになっている。

今後のスローフードジャパンの活性化に向けて、スローフード帯広の湯浅代表を中心とした複数のコンビビウムのチームから提案を受け、その提案を大幅に取り入れた形で、この運動方針を作った。

そのなかで、コンビビウムの活動の活性化のために、地域ブロック制の導入、理事定数の増員などを行う。

詳細の計画については、新しい執行部体制で決めてゆくため、運動方針は基本の芯になる部分だけになっている。

考え方としては、「たくさんの方で、仕事も、責任も、喜びも分かち合う」という計画だ。

このあとの予算、年間スケジュール、組織体制案で、この内容が反映されていることを確認して欲しい。

議長

よろしいですか、みなさん？

(拍手)

萱場

続いて、組織体制と活動計画について説明する。

これまでは、全国4(5の誤り)ブロックで、理事を1名ずつ出していた。

そのブロックを、コンビビウムの声が届き、理事が状況を把握し活動をサポートできるように、新たに分け(直し)てはどうかという提案を受けた。

それに対して、理事会等々でいろいろ詰めた結果、全国を10ブロックに分けることにした。

北から、北海道、北東北、南東北、関東、東京・神奈川、中部・甲信越、関西、中国・四国、北九州、南九州に分け、その各ブロックから、理事を2名ずつ選出する。

もう一つは、各ブロックごとに専門チームを置くことにした。

《生産者》つまり生産関係の活動を考えてゆくチーム、《コミュニケーション》つまり情報交換、発信を考えてゆくチーム、それから国際活動を支えてゆくチーム、事務局的な業務を支えてゆくチームの、4つを置く。

従来の国内委員会に通じるところもあるが、このチームをブロックごとに、それから全国で＜串刺し的＞に有機的に動かしてゆこう、という考え方だ。

(配布した)組織図に入っている名簿は検討中・調整中のもので、人事案については、この後の議案で審議したい。

このような組織体制を前提とした会議と、2010年のスケジュールについて説明する。

今年の活動スケジュールは、今日以降、新しい体制で組み立ててゆくため、最低限のことだけを決めた。

10月の(イタリアで開かれる)サローネ、テラ・マードレ、6月のガバナー会議・国際理事会、12月のテッラ・マードレ・デーが、国際行事として決まっている。

国内行事は、一つも決めていない。

会議の開催だけ、決めている。

理事会を年3回程度、ブロックで集まるブロック会議を年3回程度、専門チームの会議を年3回程度、専門チームについては年1回程度全体会を、(それぞれ)開く。

昨日の(新理事候補者を含めた)拡大理事会で3月の理事会を5月に変更してはどうか、という提案があったので、3月の理事会を5月に移動して、今年はやってみよう、ということになった。

本年度については、計画作り、方針の決定をやってゆく考えだ。

・予算についての説明

現在、スローフードジャパンが抱えている赤字をゼロにするために、3カ年の予算を作った。

来年度(2011年)が終わった時点で、負債は約180万円に圧縮される。

3年目(2012年年度)には、約340万円の黒字になる。

A案とB案があるが、会費による収入は同一だ。

A案は、現在国際本部に納入している負担金(約320万円)の減免(約130万円)が認められた場合の予算。

B案は減免が認められなかった場合の予算で、ブロック活動費や理事の活動費などの支出を切り詰める計画だ。

しかし、昨日の拡大理事会の席上、パオロ国際事務局長から、国際本部への負担金の減免を求めるのではなく、会員を増やす活動、補助金・協賛金などを得る活動などで収入を増やし、赤字を解消するのが基本的なの考えかたではないか、との意見があった。

A案・B案とも結果は同じになるが、新体制のもとでどのような形で収入を得てゆかということも含め、二つの案で承認を求める。

(映像マスターテープからの画像キャプチャー)

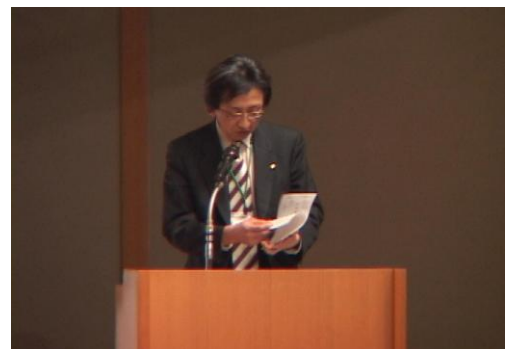
→議案の説明をする萱場事務局長

議長

それでは、質問・意見を受けます。

SF 気仙沼 菅原

質問の前に、私たち気仙沼地域がチリ津波の被害を受けたことについて、多くのコンビビウムからお見舞いや心配の言葉をいただき、感謝する。



新体制に移行するということだが、これまで常に組織論と運動論がごちゃ混ぜにして議論されてきた。組織論と運動論は両輪で、運動はみんなでネットワークを組んだり、議論をしてゆくことが大切だが、組織の方もきちんとやってゆかなければならない。一年間かけてやってゆく新体制のなかで、組織論とか運営論を議論したり、検討したりする場が持たれるのか？持たれるとすれば、どの会議がそれに当たるのか、聞きたい。

萱場

今年度の計画で、漏れていることがある。
菅原さんと同じ指摘が(前日の拡大理事会で)あった。
今年は、今日のこの大会のあと、5月、7月、12月と理事会を開催する予定だが、これらの理事会はおもに組織論の検討になる。
そこで、5月に行われる理事会に、コンビビウムや「専門チーム」から意見を吸い上げたものを持ち込み、この理事会で運動方針の肉付けを行い、その運動方針を揉んで活動方針に展開する、という提案を(前日の拡大理事会に)した。もうひとつ欠けているのは、研修会・勉強会についてだ。
理事会とは別に、各ブロックから、若手のリーダーやいろいろな知恵を持っているリーダーや会員と合同での研修会・勉強会を開こうという提案があり、これも新しい体制のもとで検討をしたい。

議長

よろしいでしょうか？

菅原

この前の代表者会議(2月20日に東京で開催されたリーダー会議)でも述べたが、**スローフードジャパンの役割について考えることが、最初にやらなければならない作業だ**と思う。
どうゆう会議になるのか、どうゆう意見の集め方をするのかわからないが、本来それをみんなで考えて、決めてゆかなくてはならない。
自主事業をやる段階なのか、或いは政策、ネットワークを構築する段階なのか、そのへんの位置づけを曖昧なまま進めると、誰がやっても大変なことになる。
だから、それについて考える機会を、是非、設けて欲しい。
そのうえで、改めて運動なり、どうゆう方針でゆくのかが決まるのではないかと、思う。
各コンビビウムで素晴らしい事業があつて、みんな楽しくやって、みんなハッピーになりたい……これは誰もが思うことだが、その前に、この組織体が生まれ変わり変革してゆくのであれば、最初の部分をきちんとやって行く必要がある、というのが私の意見だ。

議長

質問ではなく、意見ということですね。それ以外に(質問が)ありますか？
(「異議なし」の声)

SF 東京 馬場

私たちの会員から、(ジャパンが設けた)スローフード基金を通してスローフード・インターナショナルへの寄付がときどきある。
その寄付を、(実際に)インターナショナルへ送金しているのか？

萱場

スローフード基金への寄付は少額であっても、別枠で送っている。
スローフードジャパンへの寄付は、スローフードジャパンの運営費として活用している。
(※配布された2009年の決算書には、寄付の送金が記載されていない)



(映像マスターテープからの画像キャプチャー)

←質問する SF 東京 馬場代表

馬場

私たちからの寄付はすべてスローフード基金への寄付であって、スローフードジャパンへの寄付ではなかった。

そういったものを、いまなぜ「ジャパンへの寄付」と新たに発言するのか聞きたい。

萱場

馬場先生が言っているのは、会員の会費一万円のうち 2,000 円がコンビビウムに残り、残り 8,000 円がジャパンに納められるが、従来はそのなかから、一人あたり 800 円がスローフード基金に、1,700 円が会員管理の費用として国際本部に送られていた、ということだ。

それ以外の会費を、スローフードの会報誌の発行とかジャパンの事務費として残すという区分けになっていた。

しかし、国際規約が変わった時点で、ジャパンからスローフード・インターナショナルへ送る金額は、一年間 2 万 5,000 ユーロ 320 万円の定額になった。

だから、会員一人あたりいくらということではなくて、その定額のなかに(寄付による)スローフード基金も含まれ、スローフード基金としては、納められている。

ただし、2008 年(2009 年の誤り?)については、ジャパンの財政状況(赤字)に対するインターナショナルからの支援として一年分(の金額の納入を)免除してもらっているので、実質は(インターナショナルに)納めてはないが、(納入金を)納めて(ジャパンに)寄付をしてもらった、という形になっている。

馬場

その件は知っている。

私が聞いているのは、それ以外の(スローフード基金への)寄付についてだ。

萱場

スローフードジャパンに寄付をする人もいるので、それは運営費として使っている。

そういう制度は従来からお願いしているので、ジャパンに寄付して下さる人は、金額にかかわらず年間を通じている。

議長

よろしいですか？

SF 若狭小浜 上野

組織案のなかで私たちは中部・甲信越に入っているが、福井県の南部に位置する小浜は、関西の風土・習慣・食文化に属している。

この奈良の「お水取り」に水を送っているのも私も小浜だし、最近アメリカの大統領と一緒にの名前で小浜ラッシュなのだが、甲信越ということになると、ブロック単位で動くときにすごく遠い。

だから、是非、中部・甲信越ではなく関西のブロックに入れるよう、理事会で検討していただきたい。

議長

ご提案通り理事会で揉んで、あとでご連絡ということでよろしいでしょうか？

上野

はい。

議長

その他ございますか？ ……なければ、“決”を採りたいと思います。

第3号、第4号議案に賛成の方は、挙手を願います。

……ほぼ全員の方、賛成、ありがとうございました。

04) 定款及び規約の改定

萱場

・定款の変更の説明

大きい変更は第六条、七条、八条、九条だ。

第六条は、2008年12月に会員の種類を変更してプロジェクト会員と賛助会員を追加しているが、(昨年3月に山形で開かれた)総会のタイミングの関係で、定款に反映されていなかったので変更する。

第九条、「継続して3ヶ月以上会費を滞納したときには、会員資格を失う」という項目は、2008年12月から、退会届を出さない場合は、(会費を払わなくても)会員としての身分は継続される、というルールに変更しているので、定款と現状が不一致になっており、この部分の変更(削除)だ。

ただし、会員システムについては、今年度以降いろいろな部分を検討してゆこうという意見が理事会でもあがっている

ので、これは暫定的な変更だ。

来年度、この部分はまた改訂する可能性がある。

第十二条は、役員・理事の人数だが、改訂では10ブロックから各2名出るので、最大20名になる。

・国内規約変更の説明

第四条(章)については、同じく会員の種類の追加だ。

第六条(章)から二十七条(章)までの部分は、従来、国内委員会で決定するとしていた部分を、すべて理事会に変更している。

NPO法人化(2年前の3月)に伴い、国内規約と定款という別々の規則を利用する必要が生じ、その不整合の部分を最低限変更した。

また、理事会・全国大会・総会・コンビビウムリーダー会議が交錯した状態になっているので、これを回避する形での変更だ。

(国内規約と定款の併用についての説明→略)

これらについても、今年度の理事会のなかでチームを作って改訂作業を進める。

今回は、暫定的で最低限の変更だ。

議長

以上の、定款及び国内規約の改定について質問はありますか？

……ないようでしたら、賛成の方、挙手を願います。

05) 理事・監事の選出

・配布された別紙資料についての、説明

<別紙資料>

第6号議案 理事・監事の選出

■理事候補(留任)

代表理事・会長 若生裕俊(SF 宮城)

理事・副会長 濱田倫紀(SF 宮崎綾)
門上武司(SF なにわ)
笠原健一(SF とちぎ)
理事・事務局長 萱場裕(SF 宮城)

■理事候補(新任)

理事 湯浅優子(北海道 SF・フレンズ帯広)
河原木督悦(SF 八戸)
石田雅芳(SF 秋田)
遊佐勇人(SF 山形)
西野虎之介(SF 茨城)
中川璃々(SF 秦野)
佐々木俊弥(SF すぎなみ TOKYO)
後藤毅(SF あいち)
平井誠一(SF 播磨)
末永航(SF 広島)
上田孝道(SF 高知)
小野寺睦(SF 佐賀三瀬村)
田崎聡(SF 沖縄・奄美)

■監事候補(留任)

監事 尾川欣司(SF 奈良)
土屋修三(SF 信州)

(映像マスターテープからの画像キャプチャー)
↓ 議案の説明を聞く参加者(SFJの会員)



萱場

理事の留任・新任について、補足説明をする。

2月20日のリーダー会議で、新体制への提案を受け、新たなブロック制度を導入してルールを変えることになった。その席上、理事の選出、会長・副会長の選出を行った。

従来だとそこですべて決まり、この総会に上程されることになるが、(今年度が新体制への)移行期間の一年である以上、現執行部が抜けてしまつては(旧体制・資産を)継承できないという意見が出て、合同チームでやる結論になった。

それで、いままでの理事・監事が全員留任して、一年間引き継ぎ作業・共同作業を行い、新体制へバトンタッチする。したがって、現理事5名、現監事2名、新理事13名、合計18名(?)でこの一年間活動することになった。

(配布された組織図の説明)

以上 **13名の新理事、5名の現理事・2名の現監事の留任を提案する。**

議長

それでは、理事・監事選出の件で、質問をどうぞ。

SF すぎなみ 掛川

現会長・現理事は、留任になっている。

じつは、2月20日に東京で行ったリーダー会議の席上、冒頭で、若生会長の辞任が発表された。それを前提とした、留任なのか?

萱場

(無言)

樹川

はっきり、答えて欲しい。

萱場

(若生会長の)留任(「辞任」の言い間違い?)の意思表示があって、現理事・監事が(リーダー会議の席上、関東ブロックから新理事候補に選ばれた SF とちぎ・笠原を除き)ほぼ全員いなくなるという状況が生まれた。

その段階で、新理事候補の人たちが会長・副会長選出の作業をしたが、決定ができなかった。

そして、(新理事候補の人たちから)現執行部に残って欲しいとの依頼があった。

(若生会長の)退任の意思表示があって、退任するということで〇〇(*音声データを 80%に減速再生しても聴取不能)を行った結果、こうなった。

樹川

ということは、暫定の会長であり、理事(現理事)であると理解して良いのか？

萱場

はい、そうゆうことになる。一年間(の暫定)だ。

議長

そのうえで、何か？……。

……なければ、“決”を採ります。

賛成の方、挙手を……。

SF 播磨 帽田

いまのやりとりを聞き、再度確認したい。

この総会にしか参加していないので、(辞任の)意思表示があった、という途中経過はわからない。

暫定というニュアンスがあったかも知れないが、この総会で承認される決議としては、暫定ということではなくて、この規約も含め、ここに名前が挙がっている人たちが任期を正式に務める、ということを確認したい。

議長

いまの提案は、任期2年ということですか？

帽田

今日ここで決議するのは、任期1年で決議するのか？

そこが、はっきりわからなかった。

議長

(萱場に答えを促す)

……どうぞ。

萱場

理事会で話し合った前提では、理事の任期は2年だ。

だから、新理事は2年(の任期)になる。

いまの理事は、1年の暫定で就任する。

ただし、それも含めて、1年間でこれ(?)が施行できる状況になるかどうか、という判断がある。

いままでの理事会で話し合われた内容は、新理事(「現理事」の言い間違い?)は1年、新しいメンバーは、従来通りのル

ールで言えば2年になる。

議長

要するに、理事会で話されたことは、特殊な状況の提案と言うことになりますね、今回は。
……それで、よろしいでしょうか？

帽田

はい、結構です。

議長

新理事が2年(の任期)で、旧理事が1年ということですね？
よろしいでしょうか？

不規則発言

そんなに窮屈にしないで、せっかく新しい形になったのだから、(旧理事の任期も)2年というのはダメなのか？

議長

また、新しい提案があった。
旧も新も含めて、2年間やったらどうだ、という提案を……、どうでしょう、これ。

SF すぎなみ 掛川

とりあえず、(新体制への)移行期間として(旧理事の)1年間の留任だ。
率直に言って、私は早く新しい体制に移って欲しい。
でも、いろいろな問題があり、即、移行はできないということなので、1年間の暫定(任期)という考え方に賛成したい。

議長

それでは、二つの提案になっていますが、理事会の提案通り、旧(理事)は1年、新(理事)は2年という(任期の)提案で、採決に入っても良い、という方、挙手を願います。

(不規則発言続くが、聴取不能)

……よろしいですか？

昨日の理事会の提案通り、古い理事の方は1年間だけ、そして新理事の方は2年間という特殊な提案ですが、採決に入っても良い方、挙手を願います。

……過半数ですので、**提案通り、旧(理事)は1年、新(理事)は2年(の任期)ということで、採決に入りたいと思います。**

第6号議案の理事・監事選出の件、提案通りでよろしいでしょうか？

よろしかったら、挙手を願います。

……はい、過半数に達していますので、提案通り**承認されました。**

06) 次々回総会の開催地 ほか

議長

第7号議案、2012年度全国大会開催地決定の件です。

萱場

(約40秒にわたり、開催地・高知を八戸と間違えて説明→省略)

失礼しました。

2012年については二カ所エントリーがあったが、昨日の話し合いで高知に決定したいと思う。

議長

それでは、2012 年度(の総会開催予定地)は高知ということで提案します。

(拍手)

議長

そのほかに、事務局の方から何かあれば提案をお願いします。

萱場

来年の行事についての提案だ。

2011 年に、(長崎県)雲仙市から 2 回目の「テッラ・マードレ・ジャパン」開催の招致を受けた。

先月のリーダー会議でそれを説明し、参加者には基本的な了解を得た。

(※2 月 20 日のリーダーズ会議の音声記録に、その事実はない)

これについては、理事会も承認している。

議長

テッラ・マードレ長崎ですか？

(長崎で)開催したいという要望ですね。

よろしいでしょうか？

(拍手)

(島村奈津) →NPO スローフードジャパン非会員。所属コンビビウムなし。氏名も述べなかった。

2 年前に、東京財団を使って、『味の箱船』と『プレシディオ』の全体像を示すものを作った。

当時事務局だった吉開(SF セントラルイースト東京)、竹内(SF 横浜)、黒川(SF 東京)の協力により、一年間調べた。

(※いずれも、この総会には欠席)

(その資料の)権利は東京財団にあるが、スローフード協会のために使うということでやったので、それを使う権利が私たちにもある。

一流のカメラマンが撮った写真、すごい説明文、英文のドキュメントを、自由に使える。

ただし、写真は、わずかだが使用料をカメラマンに払わなくてはいけないかもしれない。

事務局の吉開が、写真資料を全部持っている。

これは皆さんのものなので、テッラ・マードレやイタリアでの国際会議の資料にして欲しい。

(拍手)

議長

私にも(後で)わかりやすく説明して欲しい。

(島村)

ひとつだけ……、東京財団の『食の宝物』にアクセスすると、全部資料が出てくる。

萱場

これは事務局の方で、新しいチームで揉ませてもらう。

議長

それでは、スローフードの全国大会を終わります。

能舞台で議長を務めたのは、私が最初で最後ではないかと思う。

私にとっても、歴史に残る議長でした。

(拍手)

16 時 37 分 総会終了

選出された新しい理事たち

(敬称略)



北海道ブロック
SF フレンズ帯広
湯浅優子



北東北ブロック
SF 八戸
河原木督悦



北東北ブロック
SF 秋田
石田雅芳



南東北ブロック
SF 福島
遊佐勇人



関東ブロック
SF 茨城
西野虎之助



東京・神奈川ブロック
SF すぎなみ TOKYO
佐々木俊弥



東京・神奈川ブロック
SF 秦野
中川璃々



中部・甲信越ブロック
SF あいち
後藤毅



関西ブロック
SF 播磨
平井誠一



中国・四国ブロック
SF 広島
末永航



中国・四国ブロック
SF 高知
上田孝道



北九州ブロック
SF 佐賀・三瀬村
小野寺睦



南九州・沖縄ブロック
SF 沖縄・奄美
田崎聡



(関東ブロック)
(SF とちぎ)
(笠原健一)

*笠原氏は、2 月 20 日のリーダー会議の席上、
関東ブロックから新理事候補に選ばれたが、
奈良総会で承認された「第 6 号議案」には、
新理事候補としての名前の記載がなかった。